

## 〇●〇発達障がいについて知ろう〇●〇

発達障がいは、自閉スペクトラム症、学習障がい（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）など、生まれつき脳の一部の機能障がいによるもので、障がいの程度は人によってさまざまです。障がいの困難さも目立ちますが、優れた能力が発揮されることもあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障がいです。

### 困っていること

#### ▽自閉スペクトラム症

- ・ 呼ばれても振り向かない、目を合わさないなど周囲の人と共感することやその場の雰囲気を読み取ることが苦手です。相手の気持ちを理解しにくく、友だちとの遊びもうまくできなかったり、社会の色々な決まりがよくわからなかったりします。
- ・ 他人に意思を伝えること、他人の意思を理解することが苦手で、やりとりが一方通行になったりします。「もしも」「仮に」といった“たとえ話”を理解できず、そのまま事実として受け取ってしまい、混乱してしまうことがあります。

#### ▽学習障がい（LD）

- ・ 全般的な知的発達に遅れはないのに、読む、書く、聞く、話す、計算するなど特定の能力を身につけることに困難が生じます。音と文字のつながりを理解することや文字の視

覚認知に障がいがあり、読むこと・書くことが苦手であることがあります。

#### ▽注意欠如・多動症

- ・ 注意力、集中力が持続せず、あちこちに意識がいてしまいます
- ・ おしゃべりが止まらない、長時間じっとしていることが苦手でうろうろしてしまうことがあります（多動性）。
- ・ 約束や決まりごとが守れない、せっかちでイライラしてしまうことがあります。

#### サポートするときのポイント

障がいがあるために困難なことを「なぜできないのか」「なまけている」と見られてしまうのは、本人にはとてもつらいことです。知らないこと、初めてのこと、変化に対応することがとても苦手です。できないことを指摘するのではなく、してほしいことを言葉だけでなく、絵や図を描いたり、実際に見本を示すなどして具体的に示しましょう。

- ・ なめらかに話すことができない場合には、あせらずゆっくり接しましょう。
- ・ 複雑で遠回しな印象になる言い方はしないで、できるだけ短い言葉や文章で簡潔に説明しましょう。
- ・ 「あそこ」「さっき」などあいまいな言葉は避け、できるだけ具体的に伝えましょう。
- ・ はっきり、ていねいに、繰り返し話し、本人が理解するまで温かく穏やかな気持ちで接するようにしましょう。

## 災害時にサポートするときのポイント

- ・ いつもと違う状況で不安になりパニックを起こすことがあります。静かな場所や安全な場所への誘導や落ち着くまで見守り、「大丈夫ですよ」と声を掛ける等しましょう。
- ・ 口頭での説明だけでなく、地図や絵などを使って具体的に伝えましょう。
- ・ 自分ではケガの痛みなどを伝えられないことがあるので声かけや確認をしましょう。